

たわらしょうがっこう がくりよく
【田原小学校の学力について 令和4年度実施各テスト結果より】

こうがくねん じっし てすと けっか で こんかい けっか ほんこうきょうしよくいん ぶんせき
 高学年が実施しました3つのテストの結果が出ました。今回はその結果と本校教職員が分析した
 ないよう しょうかいがい
 内容を紹介します。



1 NRT (全国標準学力検査) <市が実施>

- ① 実施日 令和4年4月14日(木) ② 対象学年 4, 5, 6年生
 ③ 実施教科 国語、算数、理科
 ④ 結果 下表のとおり ※全国の学力偏差値を50として比較します。

<全体>同一児童推移				
年度	R2年	R3年	R4年	前年度比
現4年			46.9	—
現5年		50.0	50.5	0.5
現6年	50.2	50.9	50.1	-0.8

<国語>同一児童推移				
年度	R2年	R3年	R4年	前年度比
現4年			48.0	—
現5年		49.4	52.1	2.7
現6年	48.9	51.5	51.5	0.0

<算数>同一児童推移				
年度	R2年	R3年	R4年	前年度比
現4年			46.8	—
現5年		50.2	50.7	0.5
現6年	52.1	51.7	51.8	0.1

<理科>同一児童推移				
年度	R2年	R3年	R4年	前年度比
現4年			46.0	—
現5年		50.4	48.6	-1.8
現6年	47.6	49.5	47.0	-2.5

2 全国学力・学習状況調査 <国が実施>

- ① 実施日 令和4年4月19日(火)
 ② 対象学年 6年生
 ③ 実施教科 国語、算数、理科、児童質問紙
 ④ 結果 右表のとおり

	R4			
	国語	算数	理科	平均
対全国比	0.930	1.013	0.995	0.979
前年度比	-0.106	0.001	0.090	-0.044

※全国を1としたときの本校の正答率です。理科は前回(平成30年度)との比較です

<児童質問紙>

●肯定的回答の上位5項目(全国と差異)

順位	全国との差	番号	質問内容【番号】
1	29.5	34	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか
2	21.4	35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか
3	17.4	国2	解答時間は十分でしたか(45分)
4	14.9	27	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか
5	14.3	30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

●肯定的回答の下位5項目(全国との差異)

順位	全国との差	番号	質問内容【番号】
1	-15.8	53	算数の勉強は好きですか
2	-12.7	45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
3	-11.0	16	学校に行くのは楽しいと思いますか
4	-8.4	55	算数の授業の内容はよく分かりますか
5	-7.8	20	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

3 すくすくウオッチ <大阪府が実施>

- ① 実施日 令和4年4月19日(火)~20日(水) ② 対象学年 5, 6年生
 ③ 実施教科 (5年生)国語、算数、理科、わくわく問題、児童アンケート



(6年生) わくわく問題、児童アンケート

※教科横断型の問題とは、文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題。

④ 結果 下表のとおり ※大阪府を1としたときの本校の正答率です。

5年生	平均正答率	
	(対府比)	(対前回比)
国語	1.022	-0.006
算数	1.038	0.059
理科	1.040	0.083
わくわく	1.027	-0.024

6年生	平均正答率	
	(対府比)	(対前回比)
わくわく	1.065	0.004



次年度のすくすくウォッチは、6年生で理科がかわりま
す。また、児童と教職員へのアンケートはタブレット
等を活用したオンラインによる回答形式になります。

4 分析 (◇/成果 ◆/課題) ※主に全国学調を中心に記載しています。

◇無答率の低下(対全国比国語-0.7、算数-1.4、理科-1.9)が見られる。日常の授業場面の一面を問うような問題に慣れてきたり、授業の場面として位置づけられたりするようになってきた。

◇プログラミングに関する問いの正答率が高かった。昨年度までに学校としてプログラミング学習に取り組んできた。情報担当からの発信の成果だと考えられる。

◇記述式の問題の結果の向上も見られたが、条件を意識して文章を構成する学習を授業に取り入れて、さらに書く力の向上をめざしたい。

◇算数では、問いによって正答率も高く、データの活用に関してよくできていた。

◇記述式の問いに対しても解答できるようになってきた(対全国比国語-1.9、算数+0.1、理科+0.2)。校内での研究を通して、書く力が高まってきたと思われる。

◇全国学調の質問紙で、授業でのコンピューターやタブレットなどのICT機器の活用に関する回答が全国よりも大きく上回っており、よりICT機器を活用した授業改善が進んできた。

◇すくすくウォッチの教科横断型のわくわく問題で5、6年生ともに、昨年度に続き大阪府を上回っていた。今後も教科指導の充実をはかりつつ、今求められているこのような問題のように最適解を見いだせる児童の育成にあたりたい。

◆国語では、選択式の問題の正答率が低かった(対全国比-6.4)。このことから、文章の内容を十分に理解できていないと思われる。短時間で初見の文章を読み取る練習が必要。また、物語文・説明文の読み取りの方法を国語の授業で高めていく。

◆算数、理科における知識の定着。既習事項の復習の機会を設けていく。A1ドリルを有効に活用するなどして、自主的に復習に取り組める力を高めていきたい。

◆式や言葉で説明するような問いの正答率が低い。式や言葉、数値や表を使って説明する学習を授業に取り入れていくことが必要である。

◆資料の読み取りの弱さが見られる。また、理科では水蒸気など科学的な知識の定着が十分ではなかった。既習事項の復習が必要である。

◆全国学調質問紙で「算数が好きか、授業がわかるか」や「学校に行くのが楽しいと思うか」の回答が全国を下回っている。算数については、より分かりやすく日常生活と連動させる授業づくりにつなげたい。また、授業などを通して子どもたちにとって魅力ある学校づくりに努めたい。

これらの結果や分析を今後も本校全学年の教育活動に役立ててまいります。各ご家庭におかれましても、今後とも、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。